

6・3制から4・3・2制へ。

前期は「学級担任制」(担任の先生が全教科を教える)で基礎・基本を身につける。中期は「教科担任制」(教科ごとに先生がかわる)と一部学級担任制にし、応用力を身につけ、後期は、教科担任制でより深く学び、高校進学へつなげる。5年生から3中の校舎で学ぶことにする。

### 独自のカリキュラムをつくる

9年間をとおした「英語学習」、羽村の歴史や文化を学ぶ「羽村学」、礼儀や規範意識を学ぶ「人間学」のカリキュラムを独自につくり、社会や道德の時間などに使っていく。保護者が子育てについて学ぶ「親学」を開設していく。

### 特別支援学級の設置

むさしの学級、E組のような特別支援学級はひきつづき設置する。栄小のくぬぎ学級をどうするかはこれから検討する。

### 部活動の充実

小学校の先生にも部活動の指導をやってもらう。施設も両方のものを使うようにする。

### 学区は武蔵野小学区とし、他学区からも通学可能にする。

現在3中に通っている松林・富士見小区域の子どもは当然の間、一貫校か2中かどちらかを選ぶ。5年生から3中校舎で学ぶので、余る武蔵野小の教室分の人数は、市内全域から通えるようにする。

...ということです。他学区からの通学を可能にすることは、一貫校と他の小・中学校との条件格差を考慮してのことなのでしょう。しかし例えば小作の方から子どもは通えるのでしょうか？また、そもそも公教育において、条件格差を生み出すことは許されることなのでしょうか。

### いつ開校するの？



教育委員会は、市民への説明、開校時期についてこう述べました。

「一番大事なのは教員、保護者、市民への説明です。市の方で強引にやろうとは考えておりません」

(開校時期は)「新学習指導要領との関係もあるので23年、24年とずっと延びる可能性は非常にあります」

### 会場からの質問に答える

残りわずかな時間でしたが質疑応答がおこなわれ、4人の先生と1人の保護者から質問が出されました。

**Q** どうして4・3・2に分ける必要があるのか？三鷹市の小中一貫校では「なぜ6年生が最高学年を経験しないのか？」との声で、6・3制に変更しようだが。

**A** 早稲田大学の先生に講演をしてもらい、身体的な特徴、精神的な成長などから6・3制が難しくなっていると話をうけた。また、小学校6年生が最高学年で過ごすことの大切さも十分わかっているが、中1の不応答が大きな問題だ。

**Q** 現在3中学区の松林・富士見小の子どもたちはどうなるのか？他校とカリキュラムなどでギャップが生じるのではないかと。

**A** 学区の問題は今後検討していくが、あくまでも保護者を選んでもらう。それから小学校6年生からの編入も当然ありえる。東小の卒業生が羽村学園に来るなど。

**Q** 小1(6歳)から中3(15歳)までの子どもが一緒になると、体の大きさや体力も違いすぎるので大変なことが多々考えられる。運動会は一緒にできるのか？部活動は？

**A** (運動会が一緒というのは)足立区の事例を言った。三鷹ではそれぞれの学校でやっている。部活動は5年生から参加させるかどうか検討課題だ。ただし大会にはでられない。

**Q** 小学校は授業が45分、中学校は50分だが、合同の動きをとるために合わせるのか？

**A** 例えば中学校を45分にして7時間授業にしたり、小5、6を50分にするということも考えられる。今後話をつめる。

**Q** 小学校の児童会は6年生を中心にしてリードしながらやっているがどうなるのか？制服はどうなるか？

**A** 児童会は足立区では5年生から同じ組織でやっている。制服は何年生からにするか検討課題だ。

**Q** やっと1回目の説明が開かれた。こういう時間だから参加できない人も多い。2回目、3回目を開くべきでは？

**A** それはその通りだ。まずは武蔵野小と3中に対してやった。段階的に市内全体に説明する。

**Q** 栄小のくぬぎ学級をなくす可能性もあるような話だが、歩いて通える距離にあることが大事では？

**A** 保護者と十分に話し合いを深めながらやっていく。

**Q** 2学期制が学力低下の原因では？見直すべきでは？

**A** 2学期制は5年目を迎えたので、子ども、保護者、先生の声をきいて検証していく。課題があれば改善していく。

### 小中一貫校計画は中止し、学力・いじめ・不登校などの解決に何が必要なのか市民とともに議論しなすべし

#### 日本共産党羽村市議団

今回の説明会に参加して一番つよく感じたのは、なぜ小中一貫校が必要なのかについての教育委員会の説明は全く説得力に欠けていたということです。ほとんどの時間を費やしての説明にも、参加者からは納得の声はきかれませんでした。

また、教育委員会に対して、先生や保護者からの不信の声が大きいことも強く感じました。

小中一貫校については全国から様々なメリットとともにデメリットも報告されています。

また、現場の先生からは、羽村の教育を向上させるためには、小中一貫校ではなく、少人数学級の実現、提出書類の簡素化、2期制の見直しなどが必要との声があげられています。

教育委員会は、「何が何でも小中一貫校を」と突き進むのではなく、子どもの成長を第一にした教育の構築のために何が必要なのかを教員・保護者と一緒になって議論しなすことが必要ではないでしょうか。現在の小中一貫校計画は中止することを求めています。